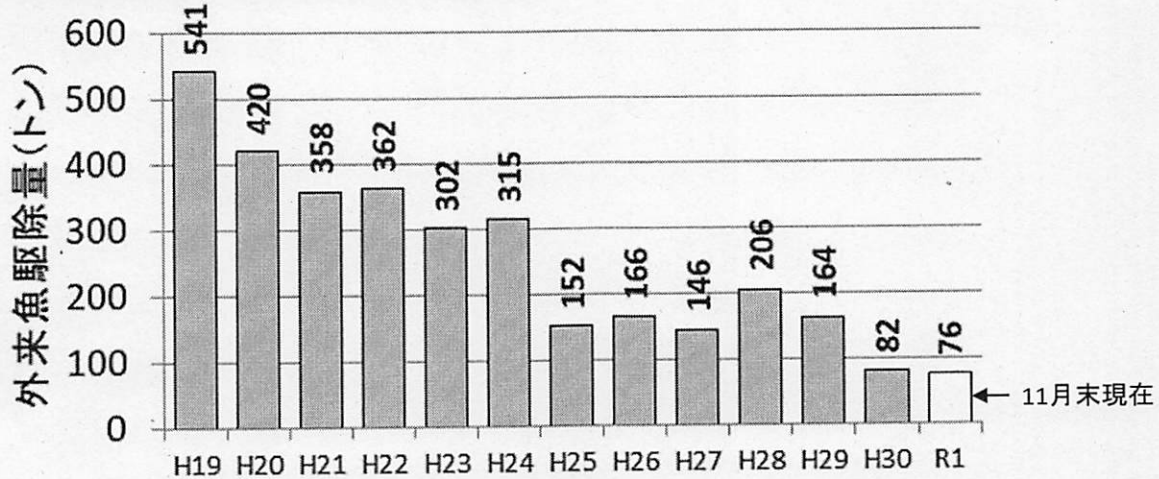


# 琵琶湖における外来魚生息量について

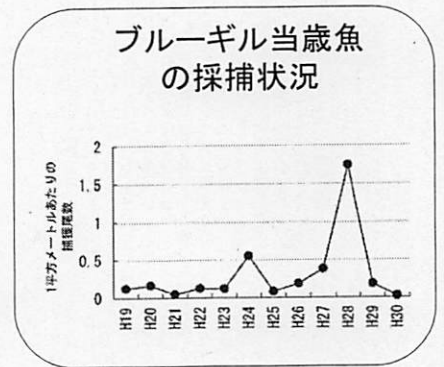
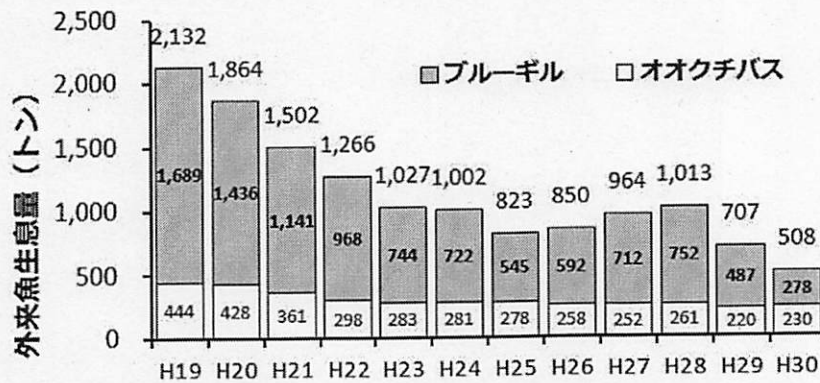
最新のデータをもとに外来魚の生息量を解析した結果、平成26年以降に増加し、平成28年には1,000トンを超えたが、その後減少し、平成30年には推定生息量は508トンとなった。

## 1 外来魚駆除促進対策事業の経過



- 平成24年度以前は毎年300～500トン駆除。
- 平成25～29年度には、天候や水草の繁茂等により駆除量は150～200トンに減少。
- 平成30年度は通常大半を占めるブルーギルが獲れない状況が著しく、駆除量は82トンにとどまる。
- 今年度も駆除量は少なく、11月末現在で76トン。

## 2 外来魚推定生息量



- 平成29年度に生息量が減少したのは、平成24年に大量発生したブルーギルが寿命を迎え始めたこと、平成28年度には比較的多く駆除できたこと、平成25、26年度生まれのブルーギルが少なかったことが考えられるほか、平成29年以降の南湖の水草の減少によってブルーギルの隠れ家が消失したこと等でブルーギルの生残率が低下したためと考えられる。

- 平成30年度の生息量減少についても、水草が少ない状況が継続していたこと等により、さらにブルーギルが減少したと考えられる。

\*本生息量推定は水産資源量の把握に広く利用されているコホート解析を適用。この解析では、捕獲した魚の年齢別の尾数などをもとに、同じ年生まれの魚の生息量を、順次、年齢分だけ過去に遡って計算し直すため、推定値は前回のものとは異なる。